

生ごみ処理 Q&A

生ごみ処理全般

Q. 家庭で生ごみを処理したいのですが、どのような方法がいいですか？

A. 生ごみ減量機器には、電気を使うもの、自然の力（微生物）を利用するもの、室内に置くもの、庭やベランダなど屋外に置くものなど、様々な種類があります。家族構成や処理を行う人の性格にあった方法を選びましょう。

生ごみ減量処理機（乾燥減量型・分解消滅型）

Q. 生ごみなら何でも投入していいですか？

A. 人間が食べられるものは、基本的に入れることができます。機種にもよりますが、動物の大きな骨や貝殻は分解しにくく、攪拌羽根に引っ掛かり故障につながるがありますので、入れないようにしましょう。また、長いもの、大きなものはカットして入れましょう。

生ごみ減量処理機（分解消滅型）

Q. どのくらいの時間で分解消滅されるのですか？

A. 機種にもよりますが、大体次のとおりです。

① ほぼ 1 日で処理できるもの

- ・火を通したもので、主食・おかずの食べ残し
- ・小さく切った生野菜くず

② 3～4日かかるもの

- ・野菜、果物のかたまり状のくずや皮

③ 1 週間以上かかるもの

- ・とうもろこしの芯と皮、たけのこの皮、ごぼうなど固く繊維質の長いもの
- ・だし昆布、わかめなど繊維質の海産物

生ごみ肥料化容器（コンポスト容器）

Q. コンポスト容器内の水分が多く、うまくいきません。

A. コンポスト容器を水はけのよい場所に設置してください。盛り土をした上に設置すると外部からの水の侵入を防ぎます。天気の良い日にふたを開けるのも効果があります。

Q. 虫がわいてしまいました。

A. コンポスト容器のふたをきちんと閉めていても、コンポスト容器に投入する前に生ごみに卵が産みつけられている場合があります。生ごみを投入するたびに十分な土をかけ、生ごみがむき出しにならないようにしましょう。かけた土がある程度卵のふ化を防いでくれます。内部の水分が多くなっている場合も、臭気や虫の発生原因となりますので、水はけのよい場所に設置してください。盛り土をした上に設置すると外部からの水の侵入を防ぎます。天気の良い日にふたを開けるのも効果があります。

Q. 生ごみが腐って臭いがします。

A. 生ごみを投入するたびに十分な土をかけて、生ごみがむき出しにならないようにしてください。また、水はけがよいか確認してください。

密閉処理容器

Q. 容器の中からいつもと違う悪臭がしてきました。

A. 嫌気性（空気を絶った状態）の生ごみ処理は、乳酸菌と酵母による発酵です。通常はぬか漬けのような芳香がすると言われています。しかし、水切りが悪かったり、密閉されていなかったりすると、生ごみが腐敗してしまいます。腐敗した場合は、すべて取り出して最初からやり直してください。取り出したものは土に埋めて熟成させることもできます。

Q. 密閉処理は、生ごみの形がそのまま残っています。これを堆肥として使ってもいいのですか？

A. 密閉処理は、堆肥化ではなく、減量・保存と考えてください。密閉処理のみでは十分に分解されておらず、そのまま土に埋めると土の中で分解が始まり、発熱等が起こります。また酸性が強い状態ですので、植物の根の近くには埋めないでください。土と混ぜて分解を行ってから、植物の根元から少し離して肥料として使ってください。